

<特集「[連用修飾的]複文」>

インドネシア語の連用修飾的複文 Clause combining in Indonesian

佐近 優太
Yuta Sakon

東京外国語大学大学院総合国際学研究科
Graduate School of Global Studies, Tokyo University of Foreign Studies

要旨: 本稿の目的は、特集「(連用修飾的)複文」(『語学研究所論集』第20号, 2015, 東京外国語大学)におけるアンケート項目に対するインドネシア語のデータを与えることである。

Abstract: This report aims to provide the Indonesian data which answers the thirty survey questions for the special volume of the *Journal of the Institute of Language Research* 20, 2015, which focuses on the cross linguistic study of 'Clause combining'.

キーワード: インドネシア語、複文、接続詞

Keywords: Indonesian, clause combining, conjunction

1. はじめに

本稿では、インドネシア語の連用修飾的複文に関する事項について記述を行う。今回の記述は『語学研究所論集』第20号(2015)の特集テーマ「(連用修飾的)複文」のアンケート項目に基づいている。アンケート回答に際しては、執筆者が日本語からインドネシア語¹に翻訳した後、コンサルタント二名²に協力していただき修正を行った。各項目について最初にアンケート原文を提示し、その後インドネシア語の例文及び説明を加える。補足が必要な場合は、アンケート項目外の例文も適宜用いている。アンケート項目外の例文は執筆者が作成し、コンサルタントによるチェックを受けたものである。



本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス(CC-BY)下に提供します。
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

¹ 基本的に書き言葉における標準インドネシア語を用いるが、一部口語体またはインフォーマルな文体も含まれる。そうした場合はその都度明記する。

² コンサルタントは Rahmat Sopian 氏と Himawan Pratama 氏である。この場を借りて感謝の意を表す。

2. インドネシア語データ

1 【同時動作】彼はいつも新聞を読みながらご飯を食べる。

- (1) a. Dia selalu makan sambil *(mem-)baca³ koran.
3SG always eat during ACT-read newspaper
「彼はいつも新聞を読みながらご飯を食べる」
- b. ?Dia selalu makan dan mem-baca koran.
3SG always eat and ACT-read newspaper
「彼はいつも新聞を読みながらご飯を食べる」

「～しながら」といった同時動作は *sambil* を用いて表す。(1a)では、*sambil* に *membaca* 「読む」が後続している。通常インドネシア語では能動態標識である接頭辞 *meN-* が特に口語において比較的自由に省略可能であるが、*sambil* の後に置かれた接頭辞 *meN-* は省略することが出来ない。また、(1b)のように等位接続詞 *dan* はこのような同時動作には用いられない(cf. (4))。

2 【継起的動作・物語的連鎖】(私は)昨日は時に家に帰って、少しテレビを見て(から)、寝ました。

- (2) Kemarin saya pulang ke rumah pada pukul 10, menonton TV,
yesterday 1SG go.home to house on time 10 ACT.watch TV
dan (kemudian / lalu) tidur.
and then / after.that sleep

継起的動作は接続詞 *kemudian / lalu* 「それから」を用いて表す。この例文では「帰る」「テレビを見る」「寝る」の順番が明らかであるため、接続詞がない場合でも継起的動作であることが含意される。

3 【継起：理由】(私は)昨日階段で転んで、ケガをしてしまった。

- (3) Saya jatuh dari tangga, (sehingga) terluka⁴.
1SG fall from stairs as.a.result TER-injury
「私は階段で転んで、ケガをしてしまった」

二つの出来事の間原因・結果の関係がある場合、接続詞 *sehingga* が用いられる。くだけた文体の場合は *sehingga* を省略することもできる。

³ 接頭辞 *meN-* の *N-* の部分は語幹の冒頭音に応じて *m-*, *n-*, *ng-*, *ny-*, *nge-*, \emptyset の形で現れる。これらは語幹にそのまま接続する場合と、冒頭音と置き換わる場合がある。本稿では前者は(i)のように形態素境界を設け、後者は(ii)のように表記する。

(i) *mem-bawa* (ii) *memukul* [*meN-* + (p)ukul]
ACT-take ACT.hit

⁴ 接頭辞 *ter-* は基本的に受動態標識であり、「結果状態」や「可能」の意味が付随するが、自動詞について「非意図」の意味を加える場合もある。そのため、便宜上 *ter-* のグロスに *TER-* で統一する。

4 【異主語】 今日も父は会社に行つて、兄は大学に行つた。

(4) Hari ini ayah pergi ke kantor, {dan / sementara} kakak ke sekolah.
 day this father go to office and / whereas brother to school
 「父は会社に行つて、兄は大学に行つた」

(5) Pagi hari ayah pergi ke kantor, {?dan / sementara} kakak masih tidur.
 morning day father go to office and / whereas brother still sleep
 「今朝父は会社に行つたが、兄はまた寝ていた」

並列では、等位接続詞 *dan* が用いられる。*sementara* 「一方で」も使用可能あるが、対比的なニュアンスを含む。この違いは、(5)のような文脈で顕在化する。

5 【付帯状況】 (あの人は) 今日は帽子をかぶつて歩いていた。

(6) a. Dia berjalan-jalan {dengan / ?sambil} {mengena-kan⁵ / memakai} topi.
 3SG walk with / during ACT.contact-KAN / ACT.use hat
 「彼は帽子をかぶつて歩いていた」

b. ?Dia berjalan-jalan {mengena-kan / memakai} topi.
 3SG walk ACT.contact-KAN / ACT.use hat
 「彼は帽子をかぶつて歩いていた」

付帯状況は前置詞 *dengan* を用いて表すことができる。*sambil* や動詞連続的構文を用いた場合、*mengenakan* や *memakai* は容認度が低くなる⁶。

6 【並行動作】 (私は) 休みの日にはいつも本を読んだり、テレビを見たりしています。

(7) Biasanya saya mem-baca buku {dan / atau} menonton TV pada hari libur.
 usually 1SG ACT-read book and / or ACT.watch TV on day rest
 「普通、休みの日には私は本を読んだり、テレビをみたりしています」

並列動作、または動作の列挙には等位接続詞 *dan* または *atau* を用いる。

⁵ 接尾辞-kan には(a)benefactive, (b)instrumental, (c)causative の他に、(d)applicative として働くが付随する機能が曖昧なものや(e)統語的変化を引き起こさず、標示が非義務的な場合がある(Kroeger 2007, Shiohara 2012)。本稿では(d)(e)のようなグロスを-KANと表記する。

⁶ このような制約は *sambil* が継続的動作を要求し、状態の解釈が出来なくなるためであると現時点では考えられる。これは頻繁に用いられる語でないものの、*ber-topi[POSS-hat]*においてわかりやすい。この語は「帽子をかぶっている」という状態を表す語であり、*sambil* とは共起できない。

Dia berjalan-jalan {dengan / *sambil} ber-topi.
 3SG walk with / during POSS-hat
 「彼は帽子をかぶつて歩いていた」

7 【理由・カラ】時間がないから、急いで行こう。

- (8) a. Karena tidak ada waktu lagi, mari kita pergi.
because NEG exist time again let's 1PL.INC go
「もう時間がないから、行きましょう」
- b. Tidak ada waktu lagi, jadi mari kita pergi.
NEG exist time again then let's 1PL.INC go
「もう時間がないから、行きましょう」

「理由」は接続詞 *karena* を用いるか(8a)、後続する節に接続詞 *jadi* 「そして」を挿入する(8b)。また、両方の接続詞を共起させることも可能である。

8 【理由・ノデ】昨日は頭が痛かったので、いつもより早く寝ました。

- (9) a. Kemarin, karena saya sakit kepala, saya tidur cepat.
yesterday because 1SG illness head 1SG sleep early
「昨日は頭が痛かったので、早く寝ました」
- b. Kemarin, saya sakit kepala, {jadi / ?sehingga} saya tidur cepat.
yesterday 1SG illness head then / as.a.result 1SG sleep early
「昨日は頭が痛かったので、早く寝ました」
- (10) Kemarin, saya sakit kepala, sehingga saya susah tidur.
yesterday 1SG illness head as.a.result 1SG difficult sleep
「昨日は頭が痛かったので、なかなか眠れなかった」

日本語における「ので」と「から」の違いは、インドネシア語には現れない。どちらも *karena* (9a) および *jadi* (9b) の使用が可能である。*jadi* と似た意味を表す単語として *sehingga* があるが、(9b) にあるようにこのアンケート文のような文脈では用いることが出来ない。これは、*sehingga* が(10)のように明確な因果関係を想定するためである。

9 【趨向／移動の目的】あの人は本を買いに行った。

- (11) Dia pergi (untuk) mem-beli buku.
3SG go to ACT-buy book
「彼は本を買いに行った」

移動の目的は前置詞 *untuk* で標示する。しかし *untuk* を省略し、動詞連続的構造を取ることもできる。

10 (彼は) 外がよく見えるように窓を開けた。【目的・意図】

- (12) Dia mem-buka jendela {agar / supaya} (dia) bisa me-lihat pemandangan
3SG ACT-open window so.that / so.that 3SG can ACT-see view
di luar lebih jelas.
in outside more clear
「彼は外の景色をよく見るために、窓を開けた」

目的・意図は *agar* または *supaya* を使って表す。両者の違いは今後の課題とする⁷。

11 【恒常的条件】 ここでは夏になると、よく雨が降ります。

- (13) Di Jepang, {kalau / jika} (di) musim panas,
in Japan if / if in season hot
{sering hujan turun / hujan sering turun}.
frequently rain fall / rain frequently fall
「日本では夏になると、よく雨が降ります」

- (14) Di Jepang, {?waktu / saat} musim panas,
in Japan when / when season hot
{sering hujan turun / hujan sering turun}.
frequently rain fall / rain frequently fall
「日本では夏になると、よく雨が降ります」

恒常的条件の場合、条件の接続詞(13)と時の接続詞(14)のどちらも使用可能である。ただし、時の接続詞の中でも *waktu* は容認度が低い⁸。

⁷ マレーシア語では *agar* は主体的な働きかけが必要であるが、*supaya* にはそうした制限がない(野元&アズヌール・アイシャ・アブドゥッラー2015: 262)。しかし、この違いはインドネシア語には必ずしも当てはまらないようである。「見える」という主体的に働き掛けがない場合でも、どちらも容認される。

Dia mem-buka jendela {agar / supaya} pemandangan di luar ter-lihat lebih jelas.
3SG ACT-open windows so.that / so.that view in outside TER-see more clear
「彼は外の景色が良く見えるように、窓を開けた」

⁸ コンサルタントによれば、*waktu* が季節など時間的幅のあるものをとる際は、主節が表す事態がその間継続することを想定しない。つまり、以下のように非継続的動作であれば許容される。ただし、この説明が *waktu* と *saat* の違いをすべて説明するものではないため、今後の課題とする。

Waktu musim panas, saya pergi ke Okinawa.
when season hot 1SG go to Okinawa
「夏になると、私は沖縄に行きます」

12 【確定条件・生起】窓を開けると、冷たい風が入って来た。

- (15) a. Tadi saya mem-buka jendela,
just.now 1SG ACT-open window
{jadi / sehingga} angin dingin masuk ke dalam kamar.
then / as.a.result wind cold enter to inside room
「さっき窓を開けたら、冷たい風が入ってきた」
- b. Saya mem-buka jendela, lalu angin dingin masuk ke dalam kamar.
1SG ACT-open window after.that wind cold enter to inside room
「窓を開けると、冷たい風が入ってきた」
- c. Tadi {waktu / saat / setelah} saya mem-buka jendela,
just.now when / when / after 1SG ACT-open window
angin dingin masuk ke dalam kamar.
wind cold enter to inside room
「さっき窓を開けたら、冷たい風が入ってきた」
- d. Tadi {kalau / jika} saya mem-buka jendela,
just.now if / if 1SG ACT-open window
angin dingin *(pasti) masuk ke dalam kamar.
wind cold must enter to inside room
「さっき窓を開けていたら、冷たい風が入ってきたはずだった」

確定条件には、後続する節に *jadi*, *sehingga*, *lalu* といった結果を表す種類の接続詞を用いるか(15a)(15b)、最初の節で時の接続詞 *waktu*, *saat* 「～の時」か *setelah* 「の後」を用いる(15c)。どの場合も基本的に *tadi* 「さっき」がある方が過去の出来事であることが明確となるが、*lalu* はすでに過去の事実であることが含意されるため、*tadi* の標示は必ずしも要求されるわけではない。また、条件の接続詞 *kalau* や *jika* はアンケート文のような確定条件の意味にはならず、実現しなかった過去の仮定を表す(15d)。

13 【確定条件・発見】坂を上ると、海が見えた。

- (16) a. Setelah saya naik ke atas bukit, ter-lihat=lah laut.
after 1SG climb to above hill TER-see=PTC sea
「丘に上がると、海が見えた」
- b. {Waktu / Saat} saya naik ke atas bukit, ter-lihat laut.
when / when 1SG climb to above hill TER-see sea
「丘に上がると、海が見えた」

- c. Saya naik ke atas bukit, {sehingga / jadi / lalu} ter-lihat laut.
1SG climb to above hill as.a.reslut / then / after.that TER-see sea
「丘に上がると、海が見えた」

発見の場合も、前述の生起と同じように最初の節で時の接続詞 *setelah* 「の後」(16a)、*waktu, saat* 「～の時」を用いるか(16b)、(16c)のように後続する節に *sehingga, jadi, lalu* といった結果を表す種類の接続詞を用いる。ただし *waktu, saat* を用いた場合は対比が含意され、「丘の上にいるときには海が見えたが、下りたら見えなくなった」という文脈が予測されるという。

14 【仮定条件】明日雨が降ったら、私はそこに行かない。

- (17) {Kalau / Jika} besok hujan, saya tidak akan pergi ke sana.
if / if tomorrow rain 1SG NEG will go to there
「明日雨が降ったら、私はそこに行かない」

仮定条件では接続詞 *kalau/jika* が用いられる。

15 【反実仮想】もっと早く起きればよかったなあ。

- (18) {Kalau / Jika} (saja) saya bangun lebih awal, ?(lebih baik).
if / if only 1SG wake.up more early more good
「もっと早く起きていれば、よりよかった」

反実仮想は仮定条件と同じ接続詞 *kalau/jika* をもちいる。また反実仮想における脱従属化の容認度は低く、*lebih baik* 「よりよい」がないと、文が途中で終わってしまっている印象を受けるという⁹。

16 【反実仮想・前件否定】あんなところへ行かなければよかった。

- (19) {Kalau / Jika} (saja) saya tidak pergi ke sana, ?(lebih baik).
if / if only 1SG NEG go to there more good
「あそこに行かなければ、よりよかった」

前件否定の場合も通常の反実仮想と同様である。

⁹ *kalau saja* という形であれば脱従属化が容認されると述べるコンサルタントもおり、この容認度には個人差があるといえる。

Kalau saja saya datang lebih awal.
if only 1SG come more early
「もっと早く来ればよかった」(佐近 2020: 415)

17 【一般的真理】 1に1を足せば、2になる。

(20) (#Kalau) satu tambah satu, jadi dua.
if one plus one then two
「1足す1は、2になる」

kalau を用いると、「もし1に1を足すと、何になりますか？」と先生が生徒に質問している文脈が想定されるため、一般的真理とはやや意味がずれる。そのため、一般的真理を表す場合は条件の接続詞は用いられにくい。

18 【仮定条件+働きかけのモダリティ】 駅に着いたら電話をしてください。

(21) a. {Kalau/Jika} sudah tiba di stasiun, tolong telepon saya.
if/if already arrive in station help telephone 1SG
「駅に付いたら、私に電話をしてください」
b. {Waktu/Saat} sudah tiba di stasiun, tolong telepon saya.
when/when already arrive in station help telephone 1SG
「駅に付いたら、私に電話をしてください」

働きかけのモダリティが後続する仮定条件では、条件の接続詞(21a)と時の接続詞(21b)の両方を使うことが出来る。

19 【仮定条件+願望】 日曜日になったら、みんなで公園に行きたいなあ。

(22) a. {Kalau/Jika} hari minggu tiba, saya ingin pergi ke taman bersama-sama.
if/if day Sunday arrive 1SG want go to park together
「日曜日になったら、みんなで一緒に公園に行きたい」
b. {*Waktu/?Saat} hari minggu tiba, saya ingin pergi ke taman bersama-sama.
when/when day Sunday arrive 1SG want go to park together
「日曜日になったら、みんなで一緒に公園に行きたい」

仮定条件に願望を後続させる場合、条件の接続詞のみが適格となる(22a)。時の接続詞である waktu と saat には容認度の差があるようだが(22b)、この要因については今後の課題とする。

20 【心配】 明日雨が降ったら困るなあ。

(23) a. {Kalau/Jika} besok hujan, akan susah.
if/if tomorrow rain will difficult
「明日雨が降ったら困る」

- b. {*Waktu / *Saat} besok hujan, akan susah.
when / when tomorrow rain will difficult
「明日雨が降ったら困る」

(23)は(22)と、時の接続詞が使えないという点で類似している。

21 【時間的前後関係に則していないナラ条件文】家に来るなら、電話をしてから来てください。

- (24) a. {Kalau / Jika} datang ke rumah saya, tolong telepon dulu.
if / if come to house 1SG help telephone ago
「家に来るなら、先に電話をしてください」
- b. {?Waktu / Saat} datang ke rumah saya, tolong telepon dulu.
when / when come to house 1SG help telephone ago
「家に来るとき、先に電話をしてください」

時間的前後関係に即していない条件文でも基本的に条件の接続詞が用いられる(24a)。時の接続詞について *saat* は使用可能であるが(24b)、*waktu* との容認度の差の要因については今後の課題とする。

22 【予想を伴った条件文】(もうすぐベルが鳴るので) 鳴ったら、教えてください。

23 【予想を伴わない条件文】(もしかしたらベルが鳴るかもしれないので) もし鳴ったら、教えてください。

- (25) a. {Kalau / Jika} lonceng berdering, tolong beritahu saya.
if / if bell ring help tell 1SG
「ベルが鳴ったら教えてください」
- b. *(Nanti) {waktu / saat} lonceng berdering, tolong beritahu saya.
later when / when bell ring help tell 1SG
「ベルが鳴ったら教えてください」

コンサルタントによれば、予測のあるなしは形式とは関係がなく、条件の接続詞(25a)と時の接続詞(25b)の両方が用いられる。ただし、時の接続詞の場合は *nanti* 「あとで」の共起が義務的となる。

24 【相関構文】働かざるもの食うべからず。／働かない者は、食べるべきではない。

- (26) Siapa pun yang tidak bekerja keras, orang itu tidak bisa makan.
who also REL NEG work hard person that NEG can eat
「働いていないものは誰でも、食べることができない」

いわゆる「誰が働かない、その人は食べない」といった相関構文はインドネシア語でも可能である。

25 【言いさし・願望】 もう少しお金があったらなあ。

- (27) {Kalau / Jika} saya punya uang lebih banyak, ?(lebih baik).
if / if 1SG have money more many more good
「もう少しお金を持っていたら、よりよい」

(18)-(19)で見たように、言いさし表現は容認度が低いいため lebih baik 「よりよい」が後続する必要がある。

26 【言いさし・提案】 これも食べたら？

- (28) {Silakan / Ayo} di-makan ini juga.
please / please PASS-eat this also
「これも食べてください」

- (29) Bagaimana kalau makan ini juga.
how if eat this also
「これも食べたらどうですか」

提案は silakan 及びインフォーマルな形の ayo という勧誘表現を用いるか(28)、 bagaimana kalau 「～したらどうですか」という表現を用いる(29)。(29)の場合 bagaimana を省略した言いさし文は容認されない。

27 【言いさし・つき放し】 (やりたいなら自分の) 好きなようにやれば？

- (30) a. {Jika / Kalau} itu mau=mu, kalau saja kerja-kan sesukanya, ?(lebih baik).
if / if that want=2SG if only work-KAN as.you.like more good
「もしそれをしたければ、好きなようにやればいいでしょう」
- b. {Jika / Kalau} itu mau=mu, kerja-kan saja sesukanya.
if / if that want=2SG work-KAN only as.you.like
「もしそれをしたければ、好きなようにやりなさい」

モダリティが異なる突き放しの言いさしも、(27), (29)と同様に許容されない(30a)。またこの場合、命令文を用いても自然である(30b)。

28 【仮定的な逆接】 このコップは落としても割れない。

- (31) a. Cangkir ini tidak akan pecah kalau di-jatuh-kan.
cup this NEG will break if PASS-fall-CAUS
このコップは落としても割れない

- b. Cangkir ini tidak akan pecah {walaupun / meskipun} di-jatuh-kan.
cup this NEG will break although / although PASS-fall-CAUS
このコップは落としても割れない

仮定的な逆接の場合、条件の接続詞 *kalau* (31a)か逆接を表す接続詞 *walaupun/meskipun* を用いる(31b)。コンサルタントによれば、条件の接続詞を用いた場合は「もし意図せず落としてしまった場合」というように非意図的ニュアンスが含まれるのに対し、*walaupun/meskipun* を用いた場合は意図性に関して中立的である。

29 【アクチュアルな逆接】 このリンゴは高かったのに、ちっとも甘くない。

- (32) a. Apel ini sangat mahal, tapi tidak enak.
apple this very expensive but NEG tasty
「このリンゴは高かったのに、ちっとも甘くない」
- b. {Walaupun / Meskipun} sangat mahal, apel ini tidak enak.
although / although very expensive apple this NEG tasty
「このリンゴは高かったのに、ちっとも甘くない」

アクチュアルな逆接は接続詞 *tapi* か(32a)、逆接の接続詞 *walaupun/meskipun* を用いる(32b)。

30 【逆接3】 彼の家に行ってみたけれども、彼はいなかった。

- (33) a. Saya pergi ke rumah=nya, tapi dia tidak ada di rumah=nya.
1SG go to house=3 but 3SG NEG exist in house=3
彼の家に行ってみたけれども、彼はいなかった
- b. {Walaupun / Meskipun} saya pergi ke rumah=nya, dia tidak ada di rumah=nya.
although / although 1SG go to house=3 3SG NEG exist in house=3
彼の家に行ってみたけれども、彼はいなかった

異主語の逆接の場合も、(32)と同様に *tapi* 及び *walaupun/meskipun* の使用が可能である。

31 【時間的期限[1]】 あの人に来るまで、私はここで待っています。

32 【時間的期限[2]】 あの人に来るまでに、食事を作っておきますよ。

- (34) Saya akan menunggu di sini {sampai / sebelum} dia (akan) datang.
1SG will ACT.wait in here until / before 3SG will come
「あの人に来るまで、私はここで待っています」

- (35) Saya akan memasak makan malam di sini {#sampai / sebelum} dia (akan) datang.
1SG will ACT.cook eat night in here until / before 3SG will come
「あの人が来るまでに、食事を作っておきますよ」

時間的期限を表す際には、*sampai*「～まで」や *sebelum*「～の前」が用いられる。ただし、動詞の種類によって解釈の違いが生じる。「待つ」のように動作に時間的幅がある動詞に関しては *sampai* と *sebelum* に表す意味の違いが現れない(34)。これに対し、(35)のように「作る」といった時間的幅がない動詞では、*sampai* の場合は「食事を作る」という動作が「あの人が来る」という事態が生じるまで継続するのに対し(日本語の「まで」に相当)、*sebelum* の場合はあの人が来るまでに食事の準備が完了していることを表す(日本語の「までに」に相当)。

略号一覧

1: first person, 2: second person, 3: third person, ACT: active voice, APPL: applicative, CAUS: causative, CLF: classifier, INC: inclusive, NEG: negation, PASS: passive voice, PL: plural, PTC: particle, PROG: progressive, REL: relative, SG: singular

参考文献

- Kroeger, Paul R. (2007). “Morphosyntactic vs. morphosemantic functions of Indonesian -kan.” In *Architectures, rules, and preferences: Variations on themes of Joan Bresnan, Annie Zaenen, Jane Simpson, Tracy Holloway King, Jane Grimshaw, Joan Maling, and Chris Manning* (eds.), Stanford: CSLI Publications, pp.229–251.
- Shiohara, A. 2012. “Applicatives in Standard Indonesian.” *Senri ethnological studies*, 77, pp.59-76.
- 野元裕樹&アズヌール・アイシャ・アブドゥッラー. 2015. 「マレーシア語の連用修飾的複文」『語学研究所論集』20, 東京外国語大学, pp.253-276.
- 佐近優太. 2020. 「インドネシア語のモダリティ」『語学研究所論集』24, 東京外国語大学, pp. 407-416.

執筆者連絡先 : sakon.yuta.n0@tufs.ac.jp

原稿受理 : 2020年12月15日